

畜研だより

平成30年3月号

発行 富山県農林水産総合技術センター
畜産研究所
〒939-2622 富山市婦中町千里前山1
TEL 076-469-5921 FAX 076-469-5945
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/chikusan/>

技術情報

系統豚「タテヤマヨークⅡ」維持群の連産能力 ～母豚の産次経過にともなう繁殖能力の推移について～

1. 系統豚「タテヤマヨークⅡ」のこれまで

大ヨークシャー種系統豚「タテヤマヨーク」の後継系統として造成された「タテヤマヨークⅡ」は、2014年春に系統認定を受けてから4年が経過しようとしています。

「タテヤマヨークⅡ」は、「タテヤマヨーク」の高発育性を継承しつつ、背脂肪厚の改善と繁殖能力の向上を主とした改良を実施しました。系統造成中は初産で生まれた子豚を育成し、その中から次世代豚を生産する種豚を選抜して種豚群を総て入れ替える「世代更新」を繰り返すため、繁殖能力の改良は初産次におけるデータで行います。このため、産次経過に伴う母豚の繁殖能力の推移については未知でありました。

今回は、系統の維持に移行して4年の間に、維持集団における母豚の産次経過に伴う繁殖データが累積されてきたので、これについて紹介したいと思います。

2. 「タテヤマヨークⅡ」維持母豚の現況

「タテヤマヨークⅡ」として系統認定を受けた集団は、造成開始から世代更新を6回繰り返した、第6世代の選抜集団でした。系統認定後、母豚数30頭程度の規模で系統の維持に移行し、可能な限り維持年数を長く保てるよう、血縁を考慮した計画交配と、必要最小限の更新豚の繰り入れにより近交度上昇の回避を図っているところです。

平成26年の系統認定以降のこれまでの母豚の産次別繁殖成績の累積平均値を表1に示しました。各産次間で腹数にバラツキがありますが、初産から8産目までの総合的な推移を見てみると、初産から4産目にかけて総産子数は緩やかに上昇し

ピークを迎えます。この間の各産次において、母豚の40～50%が総産子数12頭以上の良好な成績を示していました。中には、17～18頭分娩した母豚も認められました。

表1.タテヤマヨークⅡ維持母豚の産次別繁殖成績

産次	腹数	分娩時				
		総産子数		うち	うち	平均子豚体重(kg)
		平均	(最大値)	12頭以上分娩腹数	14頭以上分娩腹数	
初産	54 std	9.5 3.3	(17)	18 33%	4 7%	1.2 0.2
2産	33 std	10.3 4.0	(18)	14 42%	7 21%	1.3 0.3
3産	24 std	10.8 3.6	(18)	11 46%	4 17%	1.3 0.2
4産	20 std	10.7 4.4	(16)	10 50%	7 35%	1.2 0.2
5産	12 std	9.5 3.8	(16)	4 33%	1 8%	1.3 0.2
6産	11 std	8.7 2.8	(12)	2 18%	0 0%	1.2 0.2
7産	9 std	7.8 3.7	(14)	1 11%	1 11%	1.3 0.2
8産	2 std	8.0 0.0	(8)	0 0%	0 0%	1.3 0.1

※すべての世代を合わせた累積平均値

※2014年～2018年1月末現在

次に、平成30年1月末現在の母豚の産次および世代構成割合を表2に示します。まず世代構成についてですが、第6世代(始祖豚):30%、第7世代(更新繰入豚):60%、第8世代(同更新繰入):10%となっており、半分以上が更新繰入豚に代替わりしてきています。また産次構成では、第6世代が7～8産目に達しており、第7世代が2産目を中心に、第8世代はまだ繰入頭数が少なく初産以下となっています。全体的な産次構成では、現在のところ初産・2産・7産が主体の構成となっています。前段でも述べたように、血縁の上昇をできるだけ回避し系統の維持年数の長期化を図る

ため、高産次となってきた第6世代も可能な限り
 繋養を続けているところです。

表 2.維持母豚の産次構成(2018年1月末現在) (単位:頭)

世代	産次									頭数計
	未経産	初産	2産	3産	4産	5産	6産	7産	8産	
G6	0	0	0	0	0	0	0	7	2	9 30%
G7	4	5	8	0	1	0	0	0	0	18 60%
G8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3 10%
計	5	7	8	0	1	0	0	7	2	30
	17%	23%	27%	0%	3%	0%	0%	23%	7%	

3. おわりに

養豚業界では現在、高産子能力を有する海外系のハイブリッド種豚が多く利用されてきているところです。施設規模あたりの生産性を向上させる上で、このような種豚の導入はとても有効な手段です。一方、国産純粋種豚の基幹となる系統豚も、これまでの産肉性重視の改良から繁殖性に重きを置いた改良にシフトされてきています。当研究所の「タテヤマヨークⅡ」も、生産者の皆さまに是非利用していただきたいと考えています。畜産研究所だよりでは随時、「タテヤマヨークⅡ」の供給可能頭数を告知していきますので、種豚更新の機会に是非ご検討下さいますようお願いいたします。



(養豚課 前坪副主幹研究員)

種豚供給候補豚のお知らせ

当研究所で生産しました純粋種豚の供給候補頭数です。
 種豚を更新される際には、是非ご利用ください。

品種	性別	供給月		
		4月	5月	6月
W	♂		1	4
	♀			2
D	♂			4
	♀			6
WL	♀	6		

※供給価格：純粋種は♂84,000円、♀63,000円、F1は♀30,000円です。

※供給時の月齢：純粋種は6カ月齢、F1は概ね3ヶ月齢です。

※Wは『タテヤマヨークⅡ』です。

※供給希望は、供給希望日の6週間前までにお願いします。